

ICTで釣り人と地域と自然環境を結びつけ、川に人が集まるプラットフォームを構築

川釣りという切り口で地方の抱える問題を解決していく、日本初の内水面漁協を起点にした地方創生事業

【日本の川における課題】

- ①川釣り人口減(20年前300万人→現在171万人)  
→川釣り市場と地方経済の縮小
- ②漁協の経営状況の悪化(全国830漁協の47.9%が赤字)  
→3割の遊漁券未購入による収入減と担い手不足(組合員平均年齢65歳)
- ③日本の生態系豊かな川の喪失  
→最盛期より全国197漁協が解散

革新的技術フィットシュパス(システム特許取得)を導入!

【漁協と地域と自然環境を結びつけるアプリケーションサービス】

- 漁協……………遊漁券問題の解決と釣り情報と防災安全提供
- 地域……………地元店と共存し、地域情報を発信し地域外からの誘客
- 自然……………GPS集積データによる漁場整備と地域コミュニティの参加

フィットシュパスは川を囲んで、漁協と地域と自然環境を結び、豊かさと賑わいを目指します



漁協経営改善と地域経済効果と豊かな自然環境を実現!

経済的効果 漁協 × 地域 × 自然

	従来	事業効果
①釣り人口増(遊漁券収入)	10%減/毎年	前年比148%増
②漁協の監視業務効率化	6時間/1日	2時間/1日に削減
③漁場整備範囲の拡大	15km <sup>2</sup>	30km <sup>2</sup> に拡大
④地域施設の誘客(新創出)	5~8%減/毎年	240.3万円創出

\*④は提携漁協(3漁協)所在地域内経済効果の合算:調査 福井県立大学 北島研究室

社会的効果 漁協 × 地域 × 自然

釣り人集積データによる漁場整備の選択と集中  
親子による河川清掃、魚の放流参加

県外からの参加者413名(総数582名)

安全で生態系豊かな川の実現

